

幼稚園・認定こども園における学校評価報告書

丹波篠山市立八上幼稚園
園長 小田 環

1 幼稚園・認定こども園教育目標等

豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる 園児の育成
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのかかわりを通して、思いやりの心をもつことのできる子 ・よく考え、最後まで意欲的に取り組む子 ・体を動かす楽しさを感じ、何事にも積極的に挑戦する子

2 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験、人や自然とのふれあいを通して、豊かな感性を育てる。 ・基本的な生活習慣を身に付け、将来を見据えた望ましい社会性を養う。 ・4歳児：豊かな遊びや生活の経験を通して必要な言葉を身に付け、いろいろな方法で表現することを楽しむ。 ・5歳児：友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、意欲的に遊びや生活に取り組むとともに、主体的に行動して充実感を味わう。友だちとの関わりを通して社会における必要な態度を身に付け、みんなで協力したり役割分担したりしながら目的を成し遂げる喜びを味わう。

3 学校自己評価項目の達成及び取組状況

(達成状況： Aよく達成できた B達成できた C課題がある D改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程・指導	発達段階に応じて保育内容や指導方法を工夫し、自ら進んで活動ができるように援助ができたか。	B	個々の発達段階に応じた保育内容や関わりを心がけた。話し合い活動を通して、園児が自分の思いや考えを伝え合う時間をとり、自分たちで考え、決めて、遊びをすすめていけるようにしてきた。
	友だちとのかかわりを意識させ楽しく遊ぶための環境づくりや援助の在り方に取り組むことができたか。	A	教師も遊びに加わり、体を動かして遊ぶ楽しさを伝えた。運動療法を取り入れ、遊びを通して、体の発達を促すトレーニングを意識して行うことができた。
	丹波篠山市ふた葉プロジェクトに基づいて、眠育、食育の指導を行ったか。	B	栽培活動や給食指導の中で食育について指導を行ってきた。ドキュメンテーションを用いて、保護者に保育の意図や、眠育、食育の意義を伝えた。
家庭との連携	保護者と連携して基本的な生活習慣や園生活のルールの定着を図ることができたか。	B	ドキュメンテーションを用いて、登降園時の際、園児の様子を保護者に積極的に伝えた。連絡ノートや個人懇談等で様子を伝えたりしてルールの定着を図った。さらに、基本的な園生活の仕方が定着するよう継続的に取り組んでいく。
安全管理	防災・防犯・交通安全等の安全教育・訓練を行うと共に、緊急事態発生時の体制を整えているか。また、施設の安全管理が図られているか。	B	小学校と一緒に避難訓練を行い、避難場所や経路を知り、避難方法を身につけてきた。訓練の回数は限られているので、繰り返し指導していく必要がある。安全点検をもとに修繕し、予算要求を行うようにしている。
特別支援	関係機関との連携を行うことができていくか。	A	健康課や巡回相談、幼小連携した合同ケース会議等、連携を密にした。さらに、発達支援センターとの連携も進めたい。

4 幼稚園・認定こども園における学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・冬のお楽しみ会後の学校評議員会で、園児たちがやりたいこと、したいことをもとに発表内容を組み立てたとの説明を受け、子どもたちの意欲を教育内容に活かした教育(保育)が展開されていることに感心した。このことは、日頃から園児の主体性を育む教育に取り組まれてきた成果である。
- ・一つの目標に向かって活動していくことを通して、園児は達成感を感じるとともに大きく成長を遂げる。準備や練習は大変だろうけど、今後も行事、活動を大切にしていってほしい。

(2) 総合的な評価(意見・感想)

- ・園評価について主体性を育てる部分が低くなっていたが、園から報告を受けた『合奏でやりたい楽器が無かった時に園児から「無かったら作ればいい。」という声上がり、子どもたちの声を受けて保育した。』という点が素晴らしい。その姿勢が主体性を育てることにつながると考える。今後も子どもたちの思いを受けて保育にあたってほしい。
- ・夏の発表会と冬の発表会を観させていただいたが、園児たちの元気いっばいな姿と楽しそうな表情を見ていると胸が熱くなった。先生方が一人一人の園児に寄り添いながら保育をされていることが伝わってきた。自然や生き物とかかわったりふれあったりする活動をたくさんされているのは素晴らしい。園児たちは命を大切にする心を育てていっている。
- ・生活発表会では年少児が劇や合奏など多くのことを発表することができた。年長児は劇だけでなく、準備、片付け、助け合いまですることができた。1年間の成長を強く感じる事ができた。
- ・八上幼稚園は併設であり、小学校との交流を盛んに行っていることがとても良い。例えば、時計の読み方など、幼稚園では「6のところまで」、小学校では「何時何分」までと、発達段階に応じた指導を意識することができる。また、小学校がやっていることを見て、あこがれを持つという良さもある。今もよくやっているが、今後も幼小連携をさらに進めてもらいたい。
- ・運動会や学習発表会を一緒に開催することによって、初めて小学校入学をひかえる保護者にとって小学校での学習活動をイメージできる貴重な機会となっている。小学校だけでなく可能であれば中学校や高等学校との連携も園児や学生にとって貴重な体験になる。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

評価項目	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
発達段階に応じて保育内容や指導方法を工夫し、自ら進んで活動ができるように援助ができたか。	・小学校とのつながりを見据えながら教育できることが八上幼稚園の強みであり、そのことをしっかりと踏まえた教育が展開されている。小学校や関係機関との連携を通して、指導方法の研修を積んでいく。
丹波篠山市ふた葉プロジェクトに基づいて、眠育、食育の指導を行ったか。	・次年度以降、交流活動を積極的に進め、保護者と連携し眠育、食育を進めたい。
保護者と連携して基本的な生活習慣や園生活のルールへの定着を図ることができたか。	・ドキュメンテーションで分かりやすく、園児の様子を伝えられている。行事や活動の意図など、園運営に関わることも、クラスだよりを通して発信していく。 ・学校評議員会では、園児の様子、園運営に関する事など、具体的な話を聞くことができた。有益な情報を他の保護者にも広げていきたい。
防災・防犯・交通安全等の安全教育・訓練を行うと共に、緊急事態発生時の体制を整えているか。また、施設の安全管理が図られているか。	・本年度も保護者参加の下、様々な園行事が開催できたことや、日々の教育活動(保育活動)が実践できたのは日頃からの安全管理や安全対策にしっかりと取り組んでいるからだろう。今後も幼小連携して、園児の安全・安心な園づくりに努める。